

音が聞こえてくる。音に向かって10分。休憩所に到着。ひとごみの休憩所でひと息ついて、登山道を下る。

(記)

[タイム] 七入(6:45)→道行沢出合(7:20)→上曲沢出合(8:15)→沼山峠休憩所(10:35)

赤法華沢

1988年7月31日

I

七入から赤法華沢まで、30分程である。出合はあまりにも貧弱な沢で、私達はここを通り過ぎてしまう。道行沢まで行って、通り過ぎたことに気付く。赤法華沢出合に戻って、7:40遡行開始。

沢幅は小さく、水量も少ない。所々両脇から灌木が覆い、歩きづらい。沢は蛇行しながらゆるやかに高度を稼いでゆく。8時過ぎ、初めての小沢が出会う。その後何本かの小沢が分かれ、沢は細くなり瀧頭の様相を見せてくる。この間滝はひとつもない。8:30遡行を終了し、下降にかかる。結局、この日は50分程の河原歩きであった。

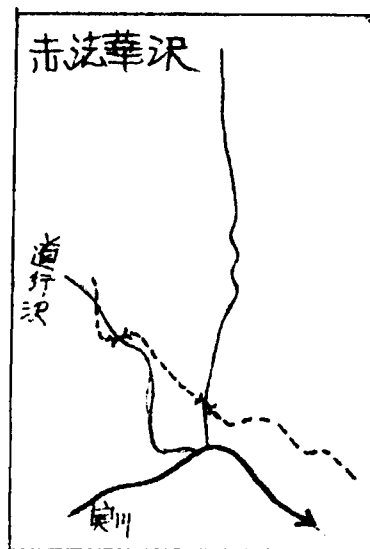
[タイム] 七入(6:45)→赤法華沢出合(7:20, 7:40)→沢終了(8:30)

硫黄沢 左後

1988年10月9~10日

10月9日 福島(20:20)⇒七入(24:10)

七入まで車を飛ばし、仮眠。



10月11日 快晴。 七入(7:00)→20mの大滝
 (8:40)→ゴルジュ入口(9:05)→車道(12:00)→沼
 山峠(13:05)→七入(15:20)

テントから顔を出すと快晴。紅葉を見ながらの
 沢登りの計画には絶好の天気となった。朝食の後、
 沢に入る。

最初の堰堤は、左側の踏跡をたどる。さすがに
 秋の水は冷たい。最初の釜でイワナの魚影を見る。
 ナメ状の滝が続き快適に遡行できる。やがてゴル
 ジュ状となった6mの滝。右岸を高捲く。しばらく
 進むと、左岸より白糸すじ状に落ちる滝がを皮
 切りに、左岸から連続して小沢が入る。このあた
 り沢は明るく、紅葉もきれいである。

8m階段状の滝を越える。そして、20mの大滝。
 ここは右岸を高捲く。幅広のナメ滝を過ぎ、5m
 滝を左岸から捲くと、ゴルジュの入口である。左
 岸をへつって進む。ナメ滝が現われると沢は明る
 くなり、樹林帯の中の沢という雰囲気となる。今
 回の目的は、秋の紅葉を楽しみながらの遡行。充
 分に堪能させてもらった。また、キノコがあちこ
 ちにあり、ザックはみるまに一杯となった。

小滝やナメを越えて進むと、沢幅も狭く、水量
 も少なくなってきた。本流からはずれ、沼山峠と
 御池を結ぶ車道に出、沼山峠を經由して七入に戻
 る。

(記

